

いなべ市

くらしや命を 守る工夫

こくげん ひ かげいし
刻限日影石



いなべ市に、「刻限日影石」という石ひがあります。「刻限日影石」は、日時計（時こくによって、かげの向きが変わることを利用した時計）の役目を果たす石ひです。「刻限日影石」が建てられたわけや、建てた人々の気持ちを考えてみましょう。



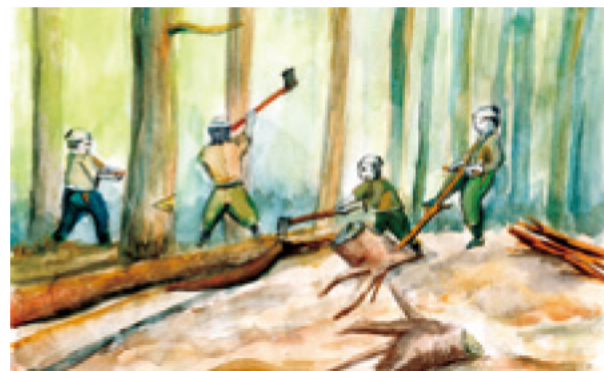
刻限日影石 (いなべ市教育委員会提供)

新しい田んぼをつくろう

今から400年ほど前の江戸時代のころ、員弁町（現在のいなべ市員弁町）あたりは、桑名（現在の桑名市、当時、おしろがあった）のおとのさまが、おさめていました。

米をたくさんつくりたい村人たちは、新田開発（土地を切りひらき、新しく田をつくること）のおゆるしをおとのさまに願いました。そして、おとのさまのおゆるしが出て、新田開発が進められました。

村人たちは、米をたくさん作ることができ、喜びました。新しい田んぼがふえ、米がたくさんできるようになると、村人もふえ、村はにぎやかになりました。



土地を切りひらいて、新しく田をつくる村人たち

ため池を大きくして、より多くの水を

田んぼがふえると、それだけ水もたくさん必要になります。水が足りなくなったので、村人たちは、「のま池」という古くからあるため池を、大きくつくりなおしました。村人の多くの努力で「笠田おおだめ」ができたのです。

しかし、ため池のていぼうが何度も切れることがありました。ていぼうが切れると、田んぼが水びたしとなり、いねがまったく実らなくなってしまうます。

村人たちは何度もため池のていぼうをなおしました。



切れたていぼうをなおす村人たち

田んぼに水がほしい

また、日でりが長く続くと、ため池の水もなくなり、田んぼは水不足になってしまいました。

これでは、いねは育ちません。どの村の人たちも、自分たちの村の田んぼに水を引きたくてたまりません。村人たちは、ため池の水を取りあうようにして、田んぼに水を引いていました。



日でりにくるしむ村人たち

水争いでなくなった文治さん

とうとう、村どうしの水争いがおこってしまいました。水を取りあいするなんて、今では思いもよらないことかもしれません。もちろん、水は今でも生活にかかせない大切なものです。しかし、米作り中心の昔のくらしの中ではとにかく水が大切でした。「水のことでは、親子や兄弟でも、けんかが起こる。」と言われるほどでした。



村と村の水争いで「くわ」や「たけやり」をもってたたかう村人たち

そして悲しいことに、文治さんという村人がなくなってしまったのです。村人は、文治さんのおはかをつくり、こんなことが二度と起こらないでほしいと願いました。

争うよりも水を分け合うことを

その後、「刻限日影石」が、ため池近くにつくられました。石のかけを見ると時こくがわかり、近くのお寺で時こくを知らせるためのかねを鳴らしました。

こうして昼間に水を入れる村と、夜間に水を入れる村を決めて、水をきちんと分け合うことにしたので、水争いはほとんど起きなくなりました。



ため池の近くにつくられた刻限日影石

「みんなでつくるわたしたちのいなべ市」(いなべ市教育委員会) から作成

考 え て み よ う

- 1 村人たちが苦勞して新田開墾を行ったのは、どんなことを願ったからですか。
- 2 田んぼがふえて、村人たちの願いは、かないましたか。
- 3 水争いが起こる前、日でりが長く続いて水不足になったとき、村人たちはどんなことを考えていたと思いますか。
- 4 あなたは、村人たちが「刻限日影石」を建て、水を分け合う約束を守り続けたことをどう思いますか。
- 5 あなたの地いきで、昔から伝えられているお話はありますか。調べてみましょう。